

第39回

和辻哲郎文化賞

募集要項



姫路市

趣 旨

姫路が生んだ哲学者和辻哲郎（明治22年～昭和35年）の幅広い業績を顕彰し、あわせて研究者の育成と学術、文化の推進に資するため、昭和63年度に姫路市が創設しました。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術などさまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられます。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた研究に与えられます。

選考委員

- 〔一般部門〕 辻 原 登（作家）
山 内 昌 之（東京大学名誉教授）
ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）
- 〔学術部門〕 清 水 正 之（聖学院大学名誉学長）
野 家 啓 一（東北大学名誉教授）
関 根 清 三（東京大学名誉教授）

賞

- 正 賞 蒔絵源氏絵千姫羽子板
副 賞 100万円

対 象

〔一般部門〕 令和7年（2025年）9月1日から令和8年（2026年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性のある評論。

〔学術部門〕 令和7年（2025年）9月1日から令和8年（2026年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

※共著、および故人による著作は対象外とします。

※「一般」、「学術」の区分について、詳しくは姫路文学館までお問い合わせください。

応募方法

どなたでもご応募できます。自薦、他薦は問いません（全国の大学等研究機関、図書館、出版社、報道関係等の諸機関に周知および推薦を依頼しています）。

応募規定

姫路文学館ホームページの申請フォームからのご応募、または右の推薦書（コピー可）に下記の項目を明記の上、姫路文学館までお送りください（ファクシミリ、電子メールでも可）。自薦（出版社からのご推薦を含む）の場合は、作品（できれば2冊）をお送りください。

- ①部門（一般部門・学術部門） ②推薦作品名（ふりがな） ③著者名（ふりがな） ④出版社名
⑤出版年月日 ⑥推薦者名（ふりがな） ⑦住所 ⑧郵便番号 ⑨電話番号

※このほか推薦理由などございましたらお書きください。

姫路文学館 〒670-0021 兵庫県姫路市山野井町84番地
電話 079-293-8228 F A X 079-298-2533
E-Mail kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp
HP <http://www.himejibungakukan.jp/>



締 切

令和8年（2026年）9月3日（木）（当日消印有効）

*令和8年（2026年）8月中に発刊される作品のご応募が締め切りに間に合わない場合は、その旨を事務局にお知らせください。

発 表

令和9年（2027年）2月（予定） 報道機関を通じて発表します。

授 賞 式

令和9年（2027年）3月7日（日）

(姫路文学館のホームページからご応募いただくこともできます。)

第39回 和辻哲郎文化賞候補作推薦書

作 品	部 門	一般部門・学術部門 どちらかに○を付けてください。
	(ふりがな)	
	書 名	
	出版社	発行日 年 月 日
著 者 名	(ふりがな)	
備 考	経歴等の特記事項	
推 薦 者	(ふりがな)	
	氏 名	
	住 所	〒 TEL() - メールアドレス
備 考	推薦理由などございましたらお書きください。	

これまでの受賞作品

	一般部門	学術部門
第1回 (昭和63年度)	大久保喬樹 『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』(小沢書店)	ウィリアム・R・ラフルーア 『廢墟に立つ理性—戦後合理性論争における和辻哲郎の位相』(『戦後日本の精神史』岩波書店 所収)
第2回 (平成元年度)	宇佐美 斉 『落日論』(筑摩書房)	上山 安敏 『フロイトとユング 精神分析運動とヨーロッパ知識社会』(岩波書店)
第3回 (平成2年度)	中西 進 『万葉と海彼』(角川書店)	永積 洋子 『近世初期の外交』(創文社)
第4回 (平成3年度)	野口 武彦 『江戸の兵学思想』(中央公論社)	ヘルマン・オームス 『徳川イデオロギー』(ベリかん社)
第5回 (平成4年度)	郡司 正勝 『郡司正勝剛定集』全6巻(白水社)	大森 荘蔵 『時間と自我』(青土社)
第6回 (平成5年度)	土居 良三 『咸臨丸海を渡る—曾祖父・長尾幸作の日記より』(未來社)	加藤 尚武 『哲学の使命—ヘーゲル哲学の精神と世界』(未來社)
第7回 (平成6年度)	堀田 善衛 『ミシェル城館の人』全3巻(集英社) 山内 昶 『「食」の歴史人類学—比較文化論の地平』(人文書院)	関根 清三 『旧約における超越と象徴 解釈学的経験の系譜』(東京大学出版会)
第8回 (平成7年度)	井上 義夫 『評伝 D・H・ロレンス』全3巻(小沢書店)	阿部 良雄 『シャルル・ボードレーール【現代性の成立】』(河出書房新社)
第9回 (平成8年度)	長谷川三千子 『バベルの謎 ヤハウリストの冒険』(中央公論社)	小野 清美 『テクノクラートの世界とナチズム—近代超克』のユートピア』(ミネルヴァ書房)
第10回 (平成9年度)	徳永 惲 『ヴェニスへのゲッターにて—反ユダヤ主義思想史への旅』(みすず書房)	一ノ瀬正樹 『人格知識論の生成—ジョン・ロックの瞬間』(東京大学出版会)
第11回 (平成10年度)	嶋田 義仁 『稲作文化の世界観 「古事記」神代神話を読む』(平凡社)	佐々木 毅 『プラトンの呪縛—20世紀の哲学と政治』(講談社)
第12回 (平成11年度)	西村 三郎 『文明のなかの博物学—西欧と日本』(紀伊國屋書店) 渡辺 京二 『逝きし世の面影—日本近代素描 I』(葦書房)	宇都宮芳明 『カントと神 理性信仰・道徳・宗教』(岩波書店)
第13回 (平成12年度)	稲賀 繁美 『絵画の東方—オリエンタリズムからジャポニスムへ』(名古屋大学出版会)	小林 道夫 『デカルト哲学とその射程』(弘文堂)
第14回 (平成13年度)	岡野 弘彦 『折口信夫伝—その思想と学問』(中央公論新社) 山折 哲雄 『愛欲の精神史』(小学館)	ケイト・W・ナカイ 『新井白石の政治戦略—儒学と史論』(東京大学出版会)
第15回 (平成14年度)	長部日出雄 『桜桃とキリスト—もう一つの太宰治伝』(文藝春秋)	木村 敏 『木村敏著作集第7巻—臨床哲学論文集』(弘文堂) 植村恒一郎 『時間の本性』(勁草書房)
第16回 (平成15年度)	秋山 駿 『神経と夢想—私の『罪と罰』』(講談社)	塩川 徹也 『バスカル考』(岩波書店)
第17回 (平成16年度)	平川 祐弘 『ラファディオ・ハーン—植民地化・キリスト教化・文明開化』(ミネルヴァ書房)	井上 達夫 『法という企て』(東京大学出版会)
第18回 (平成17年度)	新倉 俊一 『評伝—西脇順三郎』(慶應義塾大学出版会)	佐藤 康邦 『カント『判断力批判』と現代—目的論の新たな可能性を求めて—』(岩波書店)
第19回 (平成18年度)	大泉 光一 『支倉常長—慶長遣欧使節の真相—肖像画に秘められた実像—』(雄山閣)	今道 友信 『美の存立と生成』(ピナケス出版)
第20回 (平成19年度)	岩下 尚史 『芸者論—神々に扮することを忘れた日本人』(雄山閣)	伊藤 邦武 『バースの宇宙論』(岩波書店)
第21回 (平成20年度)	岡谷 公二 『南海漂蕩—ミクロネシアに魅せられた土方久功・杉浦在助・中島敦』(富山房インターナショナル)	森 一郎 『死と誕生—ハイデガー・九鬼周造・アーレント』(東京大学出版会)
第22回 (平成21年度)	今橋 理子 『秋田蘭画の近代—小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会)	互 盛央 『フェルディナン・ド・ソシュール—〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』(作品社)
第23回 (平成22年度)	杉田 弘子 『漱石の『猫』とニーチェ—稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』(白水社)	権左 武志 『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』(岩波書店)
第24回 (平成23年度)	末延 芳晴 『正岡子規、従軍す』(平凡社)	中畑 正志 『魂の変容—心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店)
第25回 (平成24年度)	劉 岸偉 『周作人伝—ある知日派文人の精神史』(ミネルヴァ書房) 安住 恭子 『『草枕』の那美と辛亥革命』(白水社)	中島 隆博 『共生のプラクシス—国家と宗教』(東京大学出版会)
第26回 (平成25年度)	池田美紀子 『夏目漱石—眼は識る東西の字』(国書刊行会)	野本 和幸 『フレーゲ哲学の全貌—論理主義論と意味論の原型』(勁草書房)
第27回 (平成26年度)	亀井 俊介 『有島武郎—世間に対して真剣勝負をし続けて』(ミネルヴァ書房)	稲垣 良典 『トマス・アクィナスの神学』(創文社)『トマス・アクィナス—存在(エッセ)の形而上学』(春秋社)
第28回 (平成27年度)	勝又 浩 『私小説千年史—日記文学から近代文学まで』(勉誠出版)	佐藤 光 『柳宗悦とウィリアム・ブレイク—環流する「肯定的思想」』(東京大学出版会)
第29回 (平成28年度)	山口 諒司 『日本語を作った男—上田万年とその時代』(集英社インターナショナル)	野矢 茂樹 『心という難問—空間・身体・意味』(講談社)
第30回 (平成29年度)	保阪 正康 『ナショナリズムの昭和』(幻戯書房)	竹峰 義和 『救済のメーディウム—ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』(東京大学出版会)
第31回 (平成30年度)	平川 新 『戦国日本と大航海時代—秀吉・家康・政宗の外交戦略』(中央公論新社)	石川 求 『カントと無限判断の世界』(法政大学出版局)
第32回 (令和元年度)	白川 方明 『中央銀行—セントラルバンカーの経験した39年』(東洋経済新報社)	松井 裕美 『キュビズム芸術史—20世紀西洋美術と新しい(現実)』(名古屋大学出版会)
第33回 (令和2年度)	サンドラ・シャルル 『『女工哀史』を再考する—失われた女性の声を求めて』(京都大学学術出版会)	宮本 久雄 『パウロの神秘論—他者との相生の地平をひらく』(東京大学出版会)
第34回 (令和3年度)	三浦 篤 『移り棲む美術—ジャポニスム、コロン、日本近代洋画』(名古屋大学出版会)	納富 信留 『ギリシア哲学史』(筑摩書房)
第35回 (令和4年度)	多胡 吉郎 『生命の罅—川端康成と「特攻」』(現代書館)	渋谷 治美 『カントと自己実現—人間讃歌とそのゆくえ』(花伝社)
第36回 (令和5年度)	小坂 洋右 『アイヌの時空を旅する—奪われぬ魂』(藤原書店)	嶺 秀樹 『絶対無の思索へ—コンテクストの中の西田・田辺哲学』(法政大学出版局)
第37回 (令和6年度)	平井 健介 『日本統治下の台湾—開発・植民地主義・主体性—』(名古屋大学出版会)	鷺田 清一 『所有論』(講談社)
第38回 (令和7年度)	日比 嘉高 『帝国の書店—書物が編んだ近代日本の知のネットワーク』(岩波書店)	渡喜喜庸哲 『レヴィナスのユダヤ性』(勁草書房)

J. Watayuki